

1 本学園の教育目標

豊かな自然環境を基盤に、体験と実践を通して、伸び伸びと個性を發揮できる教養高い社会人の育成をめざし、基本的な生活習慣、体力、学習能力、マナー等、バランスのとれた人格の形成を図る。

2 本園の教育目標

自然環境のよさを基盤に、体験と感動を軸にして各学年に必要な保育活動を行い、子どもたちの適切な成長を促すようにする。

- (1)自然や文化、人とのふれあいを通して豊かな感性を培う。
- (2)一人ひとりの個性や発達段階をふまえ、体力、知力、気力の醸成を図る。
- (3)様々の活動に対してすすんで取り組める自主的な姿勢を育むようにする。

3 本年度の重点目標と計画

年少・年中・年長の各学年の発達段階に応じた保育活動を実施して、一人ひとりの成長を促すようにする。

- (1)各学年の保育内容はねらいを明確にして構成し、週活動指導計画によって実際的な保育実践にあたるとともに、保育力・指導力向上のための各種の研修研究に参加するようにする
- (2)年少・年中・年長の各学年を適切な異年齢集団にまとめて、兄弟クラスやなかよしデーの取組みとしてその活動を広げるようにする。
- (3)農園、果樹園での播種・定植・収穫体験による栽培活動と、それを食材にした給食室の調理、そして、子どもたちの給食までを完結する総合的な食育を推進する。
- (4)イングリッシュ・タイム「英語であそぼう」の活動を通して、ネイティブの先生との交流も含めグローバルなコミュニケーション力の基礎を培うようにする。
- (5)年長の生活と学びを一年生に連携的に接続するために、学園の条件を生かした幼小交流を計画的に実施する。
- (6)毎月のお誕生会での音楽鑑賞や舞踊、観劇等の生の舞台の文化的体験を大切にして、子どもたちの感性を育むようにする。
- (7)子育て支援として運営するプレイルームと預かり保育、また、ふれあいサロンや子育て相談室等の取組みを地域との連携と協力の活動として重視する。
- (8)ホームページ、園だより・学年だより等、広報活動の一層充実を図り、保護者との信頼関係と協力関係をより親密なものに築いていくようにする。

4 評価項目の達成及び取り組み状況

(1) 保育実践の実際

- ①平素の実際的な保育について、各学年での保育内容の検討とクラス相互の保育参観を適切に実施し、指導力の向上を図ってきた。
- ②「なかよしデー」を中心に、年少・年中・年長の同年齢の卒をはらって異年齢集団のまとまりとして活動する場を定期的に設け、年齢差による子どもたち同士の育ち合いで一人ひとりの変容が生まれてきた。
- ③夏野菜、さつまいも、じゃがいもの栽培活動を行い、子どもたちの育てた野菜が給食の食材として調理され、そして食べるという体験が、日々の食事の材料につながる人々とその仕事について、想像力を働かせて考えることができる食育環境をつくることができた。
- ④ネイティブの先生によるイングリッシュ・タイム「英語であそぼう」は、年間で各クラス7回ずつを実施し、ゲームや歌に取り組むことで英語圏の文化体験を重ね、感覚や心情のグローバルな刺激が生まれた。
- ⑤各学期ごとに一回ずつの幼稚園と小学校の交流会を実施する。一学期は、七夕祭りの短冊などのお飾りを協力して製作し、二学期には合同のミニ運動会で演技とリレー、三学期には国語の授業体験で「し」と「つ」の文字学習に小学生とともに取り組んだ。活動や学習の面から小学校生活への接

続の条件づくりができた。

- ⑥年間12回のお誕生会での舞台鑑賞会を行い、ビブラフォン、チェンバロ、マリンバ等の演奏をはじめ絵本オペラや手品の鑑賞に取り組み、生の舞台の感動体験を得ることができた。
- ⑦子育て支援への取り組みは、週5日の8時から18時までの預かり保育（長期休業中も実施）の実施、週4日のプレイルームの2クラスでの運営、年間17回の「ふれあいサロン」では述べ500組以上の参加者があり、不安や悩みの多い保護者と地域の子育てをいろいろな面から応援することができた。
- ⑧園のホームページや毎月の園だよりを中心に、幼稚園のようすや子どもたちの活動について、日常的に広報活動を行い、園と保護者との結びつきが深まるように効果的な発信をすることができた。

(2) 園の施設、設備、園バス等の安全管理と安全確保

- ①園庭、中庭、なかよし広場、飼育小屋、遊具、果樹園、菜園、花壇等については、毎日、安全点検・安全確認をし、少しでも危険や問題があれば、速やかに対処・善処するための管理体制を確立している。
- ②災害、不審者、侵入者等の発生に際して、安全を確保するために定期的に避難訓練を実施し、通報、安全確保、避難等のシミュレーションを行ってきた。

5 学校評価の目標や計画についての総合的な評価結果

- ①園運営や保育内容・行事等について、毎学期及び年度末に全職員で意見交換し、より良い教育を求めるとともに、取り組むべき課題について共通理解を図り、次年度の具体的な目標設定を行う。
- ②学期はじめに全保護者への本園の保育と行事にたいする記述式アンケートを実施した。その結果、本園の「体験×感動」の趣旨を理解いただき、保育内容や教員の明るく温かい子ども対応と積極的な指導力に高い評価をいただいた。
- ③子育て支援（預かり保育、プレイルーム）において、希望者がどんどん増えており、今まで以上に強い関心と要望のあることが分かった。

6 今後取り組むべき課題

- ①豊かな環境を活用し、自然や文化に触れ、国際化・情報化のすすむ未来に生きる子どもたちであることを念頭に、体力・気力・情操豊かな成長を培うために、各領域で吟味しながら体験活動を核とした特色ある保育の充実に努める。
- ②時代や社会の動向を的確にキャッチしながら、プレイルームを拠点とした子育て支援に一層力点を置いた実践を推進し、預かり保育の土曜日実施を検討する。
- ③幼児期は、園・家庭・地域で「共に育てる」という視点から、情報の発信には力点を置いて取り組むことを重視したい。

7 学校関係者の評価

素晴らしい自然環境を生かした保育教育の実践に取り組み、学期ごと行事ごとにその成果を子どもたちの成長のなかに見ることができることは高く評価できるものである。また、小学校への接続を視野にいたれた保育カリキュラムの設定も適切なものと言える。今後も、子どもたちの実態や社会の変化、また、保護者のニーズに対応した幼児教育と子育て支援に取り組んでもらいたいものである。現代社会の課題となっている生活習慣の確立と自立、表現力等の形成については、今後も工夫ある指導を図ることが必要となる。

8 財務状況

別項参照